



奈良町にぎわい通信

Vol.19

二〇一六・立冬〜小雪

発行
奈良町
にぎわいの家



松田美緒コンサート。
世界各地や日本の暮らしの中で
育まれた歌の数々。
素晴らしい歌声が町家に。



裏庭で
収穫！



きじからつくります。
先生、さすがの手つき。

こねて
こねて...



みんなで中華まん作り体験
おいさに大満足！



今月表紙の
蔵展示
「おりがみ



ワールド」



近隣の80代の方々による折り紙。
女子高生の皆さん、
手に取って楽しんでいます。



かまどで蒸し上がった
中華まん！

奈良町にぎわいの家 10月のイベントから



奈良町をてくてく。



格子の家の説明。

ならまち
わらべうたフェスタ
けん玉名人、
中田先生による
検定も。



紙相撲大会・自分で折って勝負！



重要文化財・藤岡家住宅
ご当主によるお話を。



町家研究会による、案内と解説で
皆さん、町家を堪能。



にぎわい・ちんどん参上！

「ならまち」のまちづくり

「ならまち」のまちづくりは、約37年前頃から始まり、先ずは地域の有志メンバーが行動を興し、その後、行政の関わりが始まり『ならまち賑わい構想』へと繋がりました。この構想に基づいて設立された財団に、ならまち振興財団があります。行政と民間(地域の方々)の間に位置して、まちづくり事業に携わる団体です。現在は、名称が変わり奈良市総合財団ならまち振興事業部門となっています。

「ならまち」のまちづくりには、地域に住まわれている個人や関わりを持つグループまたNPOなどの団体があり個々の事業や協同事業を実施して賑わいが創られてきました。行政が主体となるには問題がある場合でも、民間の団体やグループならばクリアできるなどの事もあり、そこには、お互いが協力して創っていく必要があります。その様な事から現在のように「ならまち」と云う呼び名の周知や国内外から訪れる観光客、また、それに伴う観光産業の増加など奈良市の観光ツールの1つとしてのブランド化にも繋がっています。簡単に【協力】の言葉だけではなくそこには、献身も含まれています。早朝や深夜にもかかわらず協力してくださる方や、当初は「余計な事をするな。」との思いの方も、今では「ご苦労さん。頑張っているな。」など、声を掛けてくださいます。まちづくりには、継続と感謝が必要だと判り「まちづくりは、人づくり」を実感しています。

奈良市総合財団ならまち振興事業部門

嶋崎隆則

奈良町で活動する多くの団体が関わる秋の一大イベント「わらべうたフェスタ」



～ベルサイユ市長が来館されました～

10/16、奈良市の姉妹都市、ベルサイユから市長一行が来館されました。「ならまちアートプロジェクト」展示作品の説明を受けながら、井戸をのぞかれたり、また、天井の低いつ二階では、小さな空間の映像を、身をかがめながら、楽しく見ておられました。来館日が、わらべうたフェスタ当日で、当館イベントの「紙相撲大会」に、市長ご夫妻も参加、スタッフのかけ声と共に、笑いながら体験くださいました。

お帰りに二十四節気はがきと折紙作品をプレゼント。ご来館ありがとうございました。



写真は奈良市公式ツイッターから

プレゼントのはがきと折紙。手裏剣！も。



奈良町にぎわいの家・二十四節気企画
オリジナル短歌&書&マークをお楽しみください。

高き枝に木守柿ひとつ

立冬の傾くひかりに火照りてあたり

柿の木の一 番高い枝。葉も実も落ちて、一つ残っているのが「木守柿」(こもりがき)。来年もよく実るようにと、木の先端に残しておきます。その朱色の柿が、立冬の低い夕日に火照っている。立冬の傾く陽に対して、「木守柿」の鮮烈な火照りの色に、冬の空気感がきわだつお歌です。

短歌

喜多隆子(歌人)

書

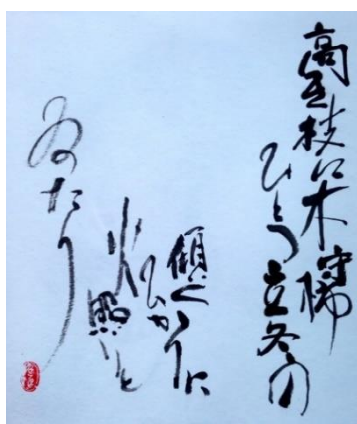
逢香(書家)

節気マークデザイン

金田あおい(藍寧舎)



「立冬」



事務局だより

2016
立冬号

月を見ながら

事務局長 藤野正文

11月、まだまだ秋と思いきや二十四節気では早くも大地が凍り始める立冬から小雪、大雪を迎える冬の季節。二十四節気って誰が決めているのだろうと思いますが、国立天文台天文情報センター暦計算室という政府の機関が発表している公式なものなんです。また、なんと？月の満ち欠けも同機関のホームページに掲載されているのです。

今は、月の満ち欠けを科学的に理解できる時代になりましたが、昔の人は不思議な天体の動きに、人間の力が及ばない自然の移り変わりに神秘的な力、畏敬の念を感じていたのでしょうか。夜の空をふと見上げて見える月をあきいだなあと思い、月を見ることで今、生きている、生かされていることにささやかに感謝する。そんな自然とともに生きる、月を見るだけで心落ち着くつましやかな暮らしがあったように思えます。

夜道にふと月明かりに気が付き、ああ、遠く離れたあの人も同じ月を眺めている、あの町も同じ月の光を浴びていると思いを馳せれば、そつと空想の世界に入り込めるものです。

現在は、そういえば夜道も明るくなり、家屋の窓には雨戸やカーテンがあり、くらしの中で、夜にふと月明かりに気がつく、月の満ち欠けを感じることも少なくなってきたのはずいぶん残念なことのように思えます。

私たちの住まいは、自然と対峙して生活を保護する機能をもつ箱の意味もあるわけですが、そういう意味では、住まいはもつと自然を楽しむくらしの空間でもあるべきではないか、そうしたくらしの方がずっと心豊かなくらしが過ごせるのではないかと思います。

月明かりを、自然を楽しみむくらしを少し意識してみませんか？自然を楽しむ、自然と共に生きる「すまいの知恵」が、日本の町家には凝縮されていて、町家に学ぶべきものが沢山あります。

奈良市役所の菊花展に出品！

スタッフが育てた菊を奈良市役所の菊花展に出品。紫の三本立て。

こちらは10月末の様子。
11月、大輪となっていることでしょう。



南瓜、栗、蓮根...食欲の秋の色！



〜にぎわいギャラリー〜
スタッフによる絵手紙企画。
お客様が、秋の素材を絵手紙に。
こちらがその力作。

奈良町にぎわい通信vol.19

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



立冬 11/8~
木枯らし吹いて

十一月の節気



小雪 11/23~
雪のたよりも

イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。
是非、ご参加ください。

エアコン、コタツにストーブなど、いろんな暖房器具で冬を乗り切る私たち。電気のない昔、囲炉裏や火鉢の暖は、ささやかでも特別な温もりだったことでしょう。